

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:2012 イエール大学サマープログラム)

所属学部/研究科・学年(留学時):法学政治学研究科 法曹養成専攻 3年

留学先大学・参加コース:Yale 大学 ELI Law Seminar

コース期間:2012年6月30日 ~ 2012年8月10日

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

2. 留学の動機

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

オンライン手続きが多く、完了したかどうか心許ないことがありました(実際一度失敗していました)。

授業料の送金など慣れない手続きが多くありましたが、渡航後の手続きなどの際に不安にならないよう、自分でしっかり手続きしてメモなどを残しておくといいと思います。大量のパスワードやIDを作成しなければならないので、メモを使って把握しないと大変でした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

大使館のホームページを読んだうえで、近くのATM等で手数料を払い、オンラインで申請します。

渡航1か月ほど前に申請しましたが、もう少し早めに余裕をもってすべきだったと思います。夏休みということもあり、大使館での面接の際はかなり並びました。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付帯保険にすでに加入していたため、保証の薄かった傷害保険の部分のみインターネットで購入しました。クレジットカードの保険は不十分といいますが、保険規約を読んで保証額の足りない部分だけ購入すれば安くなります。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法科大学院では、単位認定等留学のサポートはされません。夏学期の授業のうち、7月分は出席できない旨を授業の担当教授の先生方にお伝えして、了承をいただきました。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

大学や大学院に入ってからには特に英語に特化した勉強はしてきませんでした。日常会話には不自由しませんでした。語彙力不足は痛感しました。

また、Law Seminar でしたので、法律関係の英語に慣れてから参加すればもっと良かったように思います。

⑥日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

衣料品、日用品はアメリカではかなり安いので、あまり大量に持っていく必要はありません。体に合うバスグッズや医薬

品等をしっかり持っていけば、何とかかなと思います。

教室がかなり寒いので、厚めのカーディガン等が必要です。

外国の留学生は日本についてほとんど知らない人が多いので、日本についてある程度説明できるようにしたほうがいいです。

4. 留學生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Yale 大学の寮に入りました。2人部屋と1人部屋があり、私はトルコ人の女性と2人部屋でした。シャワー、トイレは各階に共用のものがあるだけで、いちいち部屋に鍵をかけて行かなければならないのが面倒でした。

家賃は参加費に含まれています。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

東京よりは涼しく、湿度も低めで過ごしやすい気候です(7月で30度前後)。ただ、今年の7月上旬はかなり暑く、寝苦しい夜もありました(部屋にはエアコンや扇風機がないので、人によっては現地で扇風機を購入していました)。

Yale 大学周辺はあまり治安のよくない地域でしたので、日中でもあまり一人では出歩かないようにしました。タクシーがあまり高くないので、友達と割り勘でよく利用しました。NYなどに行く際は電車が便利でした。

寮には全食事がついていますが、夕食の時間が早かった(5~7時)ので夜お腹がすいてよく外に買いに行きました。

お金は、現金で10万円と、クレジットカードを持っていきました。治安の悪い地域でしたのであまり現金は使わず、カードを利用する機会が多かったように思います。カードしか使えない機械もあるのでクレジットカードは必須です。

③危機管理関係(留學先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

前述したようにNHは治安が悪く、暗くなってからは必ず友達と連れ立って歩くようにしました。構内であれば緊急用の電話ボックスが至る所にあるので、その点は安心でした。

体調は一度も崩さなかったもので、医療関係は分かりません。ただ、シャワーしかなかったり、食生活が変わるなど生活環境の変化によるストレスはあると思います。

④留學に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃 20万円程度

授業料、家賃、食費パック 80万円程度

教科書代 2万円程度

交通費、娯楽費 15万円程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

東京大学の公募枠での参加でしたので、18万円程の補助をいただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

寮では毎日映画やスポーツなどのイベントをしていました。平日は宿題などがありあまり参加できませんでしたが、休日のバスツアー等に参加しました。

平日は、夕方まで部屋や近くの図書館で宿題などをやり、その後夕食を友人たちと食べに行ったり、近場で買い物をすることもありました。休日はボストン、ニューヨークに一泊程度の旅行をすることもありました。金曜日の夜は大勢の友人

とお酒を飲みに行くことがありました。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Law Seminar は選択科目等ではなく、全員一律の履修となっています。

Morning Class(前半は、アメリカの法律教育や法律制度の概要について。後半は、Moot Court や判例の学習)

Writing Class(法律関係文書の書き方、フォーマルな文章の書き方など)

Oral Class(発音の勉強。後半では実際の裁判の Role Playing)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Morning Class の前半は、Yale Law School で教えていらっしゃる教授の授業で、とても貴重な体験でした。本場のソクラテックメソッドを体験することができます。予習量が多く、復習はあまり期待されていない印象を受けました。ゲストスピーカーとして契約法の教授や実務家の先生方のお話も伺うことができました。

③学習・研究面でのアドバイス

英語の文章を大量に読むことになります。法律用語は普通の辞書に載っていないことも多いので、法律用語辞典のようなものを持っていく必要があると思います。

④語学面での苦労・アドバイス等

紙媒体での勉強に関しては努力と時間で何とかなる面があるので、心配することはないと思います。

口頭での授業内容の理解や、教授や友達とのフリートークの方が、英語が聞き取れなかったりして苦勞することがありました。特に友達はほぼ留学生なので、それぞれの国の訛りもありますし、話すスピードも人それぞれで難しいように思いました。ただ、だんだん耳が慣れてくればなんとかなりますし、聞き返しても全く問題ないので、遠慮せずに聞き返すことが大事です。むしろ理解せずに聞き流していると、話に参加する気がないのかと思われて損をするように思います。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

「留学準備 持ち物」等で検索したらたいいのことは分かります。

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

語学力や生活の変化など、不安なことはたくさんあると思います。自分も大学に入って以降英語から離れていて、不安でした。ただ、案ずるより産むが易しという言葉通り、実際にはとても充実した日々を送ることができました。学ぶことは毎日ありますし、留学生たちはみんな同じ目的で集まっていますから、いい友達がたくさんできます。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。



2012 イェール大学サマープログラム 学習成果に関するレポート

法科大学院の3年生です。学生最後の夏休みに、今しかできない体験をしようと思い立って本プログラムに参加しました。海外に住んだ経験はなく、留学も今回が初めてでしたので不安はありましたが、英語は好きでしたのでなんとかすると軽い気持ちで決断しました。将来的には国際弁護士を目指しているので、いずれ2年程度の留学の機会があると思い、その準備の意味もありました。

実際に行ってみて、自分の語学力のなさにショックを受けることは何度もありました。Law Seminarは南米出身の参加者が多く、スペイン語、ポルトガル語を母国語とする人たちが多かったので、それらの訛りのある英語のリスニングの難しさも感じました。早口な人が多かったので、話の流れを遮ってしまうのが怖くて聞き返せない間にどんどん話題が先に進んで行ってしまうようなこともあり、気落ちすることもありました。

しかし、だんだん耳が慣れてくると独特のアクセントも分かるようになり、そんなに難しい単語は使っていないのだということもわかってきました。また、みんな英語を学びに来ているので、わからないことを聞き返したりゆっくり話したりしても当然笑顔で応じてくれるということもわかりました。

Law Seminarの授業は、Yale Law Schoolの教授によるアメリカの法制度や法学教育についての概論的な授業に始まり、法律家として仕事をする際に役立つようなフォーマルな英文の書き方、判例の読み方、裁判のロールプレイなど多岐にわたる内容でした。予習が多く、判例をいくつも与えられて、明日までに読むようにと指示されることも多くありました。授業は緩やかなソクラティックメソッドを用いて、ランダムに当てたり手を上げたりして双方向的な授業が行われました。予習をしていかなければ、

なかなか先生の早口の英語だけで授業に追いつくのは難しいので、毎日相当量の英文を読むトレーニングができました。

また、Yale Law School は全米一のロースクールとして有名ですが、Private Lawyer のLLM 参加を認めておらず、学者や立法関係の法曹のみを受け入れているとのこと。ですから、Yale Law School の教授の授業が受けられるのは非常に貴重な経験ですし、Yale 大学のアットホームな雰囲気を経験できるのもこのような機会があってこそのことです。

Law Seminar の参加者は全体で 29 人で、生徒の大体半分くらいはすでに法曹として働いている人々で、残りの半数が学生でした。9 月からの LLM の準備として来ている人も 3 人いました。ただ、みんなアメリカの法制度について特に詳しいというわけではないので、知識量に大きな差があったり、英米法の予習をしていかないとついていけないというわけではないと思います。

予想はしていたことですが、欧米の授業風景は日本とはかなり違っていています。授業中でも手を上げずに発言する生徒はたくさんいますし、先生も内容さえよければそれを歓迎する風土です。先生のオープンな質問に対しては積極的に声を上げなければ答えられませんし、意見を聞かれたときは、一言コメントではなく自分の考えをきちんと説明する必要があります。最初は戸惑いもありましたが、思い切って発言すると先生もそれをちゃんと見てくれていて、次回からも発言を促してくれたりしました。

また、先生は生徒全員の顔と名前を覚えてくれていて、Summer Session の卒業生のこともかなり覚えてくれていたようでした。

Law Seminar の参加者の多くが将来的にアメリカでの LLM コース等の留学を考えている人達だったので、仲間内での情報交換も盛んでした。実際に 9 月から LLM に参加する友人からは、留学先の決め方や入学申し込みの仕方などの具体的な話も聞くことができました。

留学に関してよく聞く話の一つに、日本人の留学生は日本人同士でつるんでしまっていて英語の勉強が進まないというのがありました。ただ、今回の留学に関してはこの言説は全く当てはまらなかったと言っていると思います。日本人の友人も当然できましたし、仲良くなりましたが、日本人だけで食事や遊びに行くことはほとんどありませんでした。ルームメイトや Law Seminar の友達と一緒に行動していて、外出先で他のグループと一緒にいる日本人に偶然会う、ということが多かったように思います。出身国が同じ人同士でグループを作っていると、せっかく仲良くなりたいと思ってもなかなか話しかけづらいことが多く、結果的に損をしてしまうことが多いと思います。意識的に外国の友達と一緒に行動するようにしていたら、友達からも好意的に受け入れてもらえましたが、自分の英語力の向上にもつながりました。

留学中の休日には、友人たちとニューヨークやボストン観光に行きました。アメリカに行ったのは 2 回目だったのですが、1 度目はまだ小さい頃だったので全く覚えておらず、とても新鮮な経験でした。

今回の留学で意外だったことの一つに、他の国の人たちの中には本当に日本について全く知らない人もいるということがあります。どちらかというと「アジア人」というカテゴリで考えていて、それまで中国や韓国と意識的には区別していなかった、と言われることが何度かありました。私としても、南米の国々それぞれに区別してイメージを持っていなかったりということもあったので、留学生同士で互いの国のことを教えあったりしました。一般的には「日本人」のイメージは良いことが多いですし、それに恥じない行動をとることは常に心がけるようにしました。留学中の行動でその人の「日本人」のイメージを大きく左右してしまうことがあるだけに、最低限の気遣いはとても重要だと思います。

また、文化の違いとして、私の言ったニューヨーク州、コネチカット州では飲酒の規制が日本よりかなり厳しくなっています。お店でしかお酒は飲めませんし、21歳未満は夜お酒を出すお店にそもそも入れてもらえません。あまり治安も良くない土地でしたし、そもそもお酒に関する考え方が違うので、友人同士でも夜中に酔っぱらって前後不覚になるようなことはめったにありません。こういった日常的な感覚の違いは至る所にあるので、場所に応じて臨機応変に対応する必要がありました。

今回の留学では、大変なことや落ち込んでしまうこともありましたが、本当に密度の濃い6週間を過ごしたと思います。英語力だけでなく、いろいろな国の文化や、外国の人々との付き合い方を学べたことは非常に有意義でした。帰国後もたくさんの友人と連絡を取っていて、今後もきっとまた会う機会があるでしょう。

留学を経験して、留学への意欲は確実に増しています。また機会があれば留学したいかと問われたら絶対にしたいと答えると思いますし、また留学することができたら、また新たに毎日たくさんのことを学べると思います。留学する場所、勉強する内容、会う人々によって、日々新鮮な体験ができるのが留学のいいところです。

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:2012 イエール大学サマープログラム)

所属学部/研究科・学年(留学時):東京大学大学院総合文化研究科 修士課程 1年

留学先大学・参加コース:ELI (English for Postgraduate Student)

コース期間:2012年7月1日～2012年8月10日

卒業・修了後の就職希望先:1.研究職 7.その他(中高教員)

1. 留学先大学の概要

As for the security, I have to say the neighbors are terrible. As a private university, most of the students are brought up in a rich and intelligent family. They will give you a hand and support your staying at Yale from your housing to your studying. While they are so affable and I recommend you make friends with them, most of the areas in NH are a little bit dangerous and you should not talk to the people walking on the street. Actually, there are a lot of homeless people abundant in the greens and the roads and approach you for your money. In front of the doorway at the dorm are also a few of them. Besides, a lot of patrol cars and ambulance are running through the town every moment (No doubt more ambulances run in the town than buses or taxis and furthermore they are too noisy.)

2. 留学の動機

Last year, I visited my junior high school to do practice teaching, where I taught English for three weeks. While most of the students were pretty good, I met only one poor student, who was never convinced by my explanation and, what was worse, the more enthusiastically I gave a lecture to the class, the more question would popped onto his mind: There are a lot of vernaculars in English and can I truly conclude this is a wrong sentence? Maybe adhering to the standardized English "dialect," I evict a possibility from me, a possibility to see the diversity of the English language... Three months after that, this poor student, majoring in linguistics and now at the doorway to an English teacher, had to submit his first graduation thesis to his university. Actually, I, the poor student, strongly overwhelmed with my shortage of the English proficiency, lacking in knowledge of vocabulary and grammar, strongly feeling that I could not make myself understood in this foreign language. "I have to immerse myself in the overwhelming language," I thought, "to make friend with him, who I have dehumanized as a tool of communication and the target of the linguistics." --- This is when I saw the ELI on the internet.

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

Actually, there are a lot of people involved in your staying abroad from you yourself to the staffs in Yale and Tokyo university, which means some plans may not work as you expected to. For example, I had received a schedule sheet from Tokyo university at the beginning of April, saying that you should do this until this date or you will receive this kind of letters from Yale University or whatever, but some materials I need for my visa did not send to me even after the expected date had passed. At that time I became panic and totally worried whether I could go abroad or not. To avoid such a terrifying situation, I had two pieces of advice for you: first is not to hesitate to ask the staff for the further information. Second, prepare the materials in advance. Of course there are some materials sent from Yale or ambassador, but the others are to be prepared by yourself. As for the latter kind of material, you should prepare them to avoid such a panic and concentrate on your study and

English.

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

I got F-1 visa. I asked Yale University to send me some materials for the application of this visa. (The way of asking for them will be noticed by Tokyo University.) The time I needed for the interview was just 5 minutes or so. After one week, I was given a visa in my passport.

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

新海外保険【off!】株式会社 損害保険ジャパン

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

As this program started at July 1, I had to abandon two lectures of each class and could not attend the final exams. So I asked each teacher what I make up for them. Some teachers were so kind as to allow me to submit a paper after the summer session was over, instead of the last two lectures and the final exam. On the other hand, some teachers in different department from me or teachers from other university frowned on my staying abroad at the risk of attending at their lectures. Therefore, you should confirm in advance what kind of compensation will be required for your summer session, for example, at the first class in April and if the teacher will rebuff you, then I think you had better ask 国際交流支援科 for asking him with you. In my case, in a certain class, I was refused to be given a unit at my first contact, but after I asked her again and again she finally gave me a permission to go and promise to give me a unit as long as I submit two papers until the deadline date.

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

Actually, my English proficiency was too terrible as you may already notice, so I should have studied in the summer term or went to some English school regularly. But for me there were no time available for them. I had to earn money for this summer session and do part time job, and what was more I had to take some classes for the teacher's license beside my own study, which made me so busy at that time. Therefore, I went to an intensive course for 4 days, instead, in an English conversation school. But I am not sure it worked.

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

Since the USA is a well-developed country, you can get whatever you need in your everyday life at the bookstore or glossary store. But you should bring enough amounts of shampoo and conditioner with you. The bathroom will be shared by your roommates. And in some case they seem to use yours. (Of course, they are not thieves. It's just because they are culturally so accustomed to share whatever they have.) My shampoo and conditioner will disappear much sooner than I'd expected. And the shampoo and conditioner sold in the USA seemed not to go well with me... So make sure to have more items than you need.

4. 留學生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Dorms are distributed to each student. Some people do room-share while others lived alone. In my case, I lived all by myself on the fourth floor (or it would be better to say I live in an attic room). I heard there were a lot of cockroaches out there in the dorm but I saw one only one night in the bathroom. Dining rooms are so pleasant and the served food was delicious. It was a buffet style and you can eat a lot of fresh vegetables and enough fruit. One thing I want to complain is the air-conditioner. While in the public places, like battery or library, you can find air-conditioner working, in your private room there is no such devised prepared. Since my room was on the fourth floor (in Japanese "5-kai"), I had to study with my sweat running on my face, though you could buy a fan at a nearby bookstore.

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

Compared to the Japanese climate, it was heaven. Of course, there were a lot of hot days and we had some bad weather like thunder storming or heavy rains. But as the humidity itself was not high, I could walk pleasantly under the clear blue sky. As I have said I wanted to have air- conditioner, that hotness was no doubt attributed to the fact I lived on the fourth floor and if you live in first, second or third floor, it would be pleasant time for you. As for transportation, I have to say that taxi is not convenient, rather you will use public buses or free shuttle buses. At night, Yale University will send you a free security shuttle. Since it was a dangerous place outside the colleges, you had better not walk at night. Actually, I used that service many times. As for meal, I think there is nothing to say. The meal in our dorm was pretty good, and the restaurants in NH were also great and tasty. As Yale has a lot of international students, there are plenty of ethnic restaurants from Thai food to Spanish food. As for money, I also had no trouble. I used City Bank and draw some money there but most of the cases, I think you will use your credit cards. So maybe it is better to know how to use it --- from where you should put your signature to how much money you should pay for the tip. These kind of knowledge will suffice, I suppose.

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

As I told you before, the town itself is totally bad. I heard that the park will become a drug- trading place at night. But nothing to be worried about. If you know that is a little bit dangerous and walk with your friends, nothing will happen. As for the medical issues, I am not sure. On the first day, there is a conference and you will be given some information on the important faculties in Yale from your dorm to the medical faculty. So it is good to keep that note on you. But maybe the most reliable thing is your house keeping staff. They live in the same building with you and pleasantly give you a hand. Actually they are also Yale students, so make friends with them and consult with your problems, if any.

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

For the flight: around 2,200.00

For the tuition fee (including the housing) : \$7,422.50

For the books: \$10,25

For the transportation: around \$100.00

For the amusement: around \$300.00

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

FOTI (Friends Of Today) gave me \$4,000 as a scholarship.

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

Actually, it seemed that other courses, like English Intensive Course, had a lot of time to spend their time with their friends. For example, they went to shopping mall tour, as well as visiting NY or Boston. I think this is because most of them were high- school students. But in my course, English for Postgraduate Students, comprising 14 members from people in their master course to people who already work for their company, there were no such trips planned for us. Actually, some of us had to go to his office after the morning class was over. So it was very pity not to spend my time with my mates outside the class.

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

(1) Writing

(2) Speaking

(3) Presentation

(4) American Culture

None of them can be admitted as my unit in Tokyo University.

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

As a Summer Session student, I participated in the English for Postgraduate Students Course in 2012, designed to help the graduate students refine their pronunciation, presentation, writing skills and American culture. Here I briefly recap the classes I had but note that teachers will change every year. This is because Yale University invite a lot of visiting teachers to teach the summer session students. Classes will change if the teacher is different. So I cannot assure that you can take the same course as me. For example, the writing teacher was different from the teacher in the last year, and the presentation teacher was so young and this was her first time to teach postgraduate students, she said. On the other hand, the pronunciation teacher said he continued teaching in this course for several years.

In pronunciation class, we had two tasks: in the first three weeks, the teacher theoretically explained to us the American standard colloquial pronunciation system and introduced the IPA (International Phonetic Alphabet). In Japan, our attitude to the pronunciation is too narrow. For example, while I had been familiar with the difference between *r* and *l*, I had not known that the sounds in ur.ban and in the words like ar.chi.tec.ture are different. Since he himself majors in Phonology, the teacher pointed out our wrong pronunciation one by one and gave us a great amount of useful advice. In the latter three weeks, we were instructed to mimic the vernacular American pronunciation in You Tube. Although our pronunciations did not improve greatly (because six weeks are too short), I, at least, found a key to polish my articulation.

In presentation class, we had three chances to make a presentation: informative presentation, persuasive presentation and panel discussion. In the informative presentation, we were given 5 minutes and introduced our own cultures to the class: This presentation was designed to explain something to the ordinary people. In persuasive presentation, we were given 7 minutes and made a discussion: This presentation was designed to discuss the matter and persuade the audience to agree with us. The final presentation was panel discussion, in which three or four people stated their opinion and practiced how to deal with the question from the audience in 30 minutes. Although I wanted to have more opportunities to have a presentation, I could compare other people's handouts and got a chance to learn their talking styles and logics of the discussions.

These two classes were held in the morning, from 10:20 to 13:00. In addition to them, I had a writing course in the afternoon from 16:00 to 17:15. This class was a little bit tricky to us. According to the syllabus we had been given in advance, we were supposed to learn the academic writing. By the expression "academic writing," I had expected for the teacher to teach us the construction of the thesis: how to write the introduction part, the main discussions or good tactics to writing the conclusion. This was because in linguistics, which is my major, students are obliged to learn and imitate certain type of writing style using a lucid logic. Rigid but tough, this kind of writing skills will require a lot time from us. But this class was designed to polish our rhetorical writing skills in English. We were taught to learn how to write with metaphors, how to use your compelling moment in your essay and how to write a parody. It was true

that this kind of skills were not what I expected for the teacher to teach us, but it did help us to refine our English proficiency and to find writing and the English language so interesting.

In addition to these three classes which we had every day from Monday to Friday, we had an America culture course. In this class, we learned English idioms, cultures in Native American people, visiting the public libraries, and so on.

③学習・研究面でのアドバイス

I think there is no special advice to you. As long as students in Tokyo University, you will study hard to catch up with the class and that will be suffice.

④語学面での苦勞・アドバイス等

No doubt, this summer session will be an appropriate time to improve your English skills. But you should not expect too much. As this was my first time staying abroad and had no idea of what the staying abroad is like, I had thought that I would become a person with great English proficiency. But actually, it was an illusion. There were 14 people attending at the course. Objectively speaking, we tried to our best. Korean people's pronunciation is still Korean pronunciation and Greek people's grammar is still Greek grammar. The development can be found in a tiniest point. Staying abroad doesn't mean you can improve your English dramatically. Then, did I bear no fruit through this experience? No! At least, I got used to the English environment and got a further motivation to continue to polish my English. And above all I got a lot of international friends. What a treasure I got!

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

As for our everyday life support, housing staffs were so kind to help me with my staying there. They are at the same time our helpers but on the other hand they are our best friends. As for support for our study, there was no special support from Yale outside the class, such as opportunity of consulting my pronunciation or essay I was writing. I think this is because our class did suffice and I did not want such an additional support, actually.

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

Libraries are excellent with a lot of services from audio devices to study room. I heard there was a gym nearby our dorm and you could use it during the summer session for free, which I did not use though. As for dining rooms, as I mentioned before, they were great. You may imagine American foods are not tasty compared to Japanese foods. And actually, when I bought a sandwich (or so-called sandwich) at the glossary store, I found it terrifying. At the dorm's dining halls and restaurants in NH, however, the served foods were pretty good. Nothing to complain about. As for PC environment, you don't have any complaint, either. There is a free Wi-fi flying in the colleges, including our dorm and in the libraries there were many computers available.

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Actually, I had never checked such a web site or publications. Rather, the advice from the student staying in Yale last year will be of a great help.

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

You should go as young as you can.

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。



2012 イエール大学サマープログラム 学習成果に関するレポート

This is the essay on my joining the six weeks staying in the USA. During these six weeks, I have changed my view to the world, especially developed my concern with the diversity of way we think. Through this experience, I came to think that to continue meeting people who have different cultural background will enrich my life. Although I was not sure to go abroad to study my own field, I now strongly want to go back to and live in the USA.

At the first American Culture class, we introduced ourselves to the class. “Hi, I’m ... from Japan and I live in Tokyo, you know, the capital of Japan, the biggest but most crowded city. My major is linguistics, ... I mean to study languages...” I sit down my seat and breathe so deeply relieved, after released from a tense moment. A big applause told me the end of my turn and urged the next speaker to stand up and talk to herself. Paying attention to her, I said to myself, “Of course, we came from different countries from Asia to Africa but surprisingly, you know, the style of self-introduction is not different.” She said she was from Korea, living in Seoul, majoring in Musicology, graduated from a famous university in Korea... and ended with the question: “I am a Christian and what about you guys?”

Actually, I know that some of the Japanese cultures are imported to the Korean and, in turn, we are also accustomed to the Korean modern cultures. Besides, we share not only the modern cultures but also the ancient ones. Roughly speaking, Korea and Japan have been under the great influence of the China, as a peripheral area of that eminent country. Furthermore, the scenery in Seoul looks very similar to ours. There are a lot of tall buildings standing next to each other. In the big city, you can find easily shopping malls and some amusement faculties. What about our biological characters? Compared to Americans and Europeans, our body size are smaller. In addition to them, compared to China and the U.S.A our lands are too limited and there are a lot of mountains running through Korean Peninsula and Japanese Archipelago. In such a small island available, we have bred rice plants as our main dish. Besides, Korean has a similar language structure as ours. Korea has also topical markers, SOV word orders, a lot of honorifics and plenty of modal items. From these facts, I expect Japanese and Korean people have so many things in common so that you could ignore some tiny differences and easily talk to each other, compared to the Europeans or people from Africa, who also attended at American culture class. But the last line she posed to the class did, actually, perplex me for a while.

I am not surprised to find her a Christian, but to see her ask other people’s religion so easily. Of course, I have a few Japanese friends whose religion is also Christianity. But it is rare or it would even be regarded impolite to ask your religion at the time like self-introduction.

Actually, in the course there is another girl from Korea but not a theist. We three soon became very good friends and talked a lot. “Why does the large Japanese population have no religion? You know that the atheist population in the world is very small. Nevertheless, most of the Japanese people have no religion. I find it strange.” After the contemplation for a while, I replied, “Maybe that fact is closely related to the Japanese history. After the WWII, Japanese national

religion had to be abandoned by the WHQ,” surprised to see that this was the first time for me to consider the topic of the religion so deeply.

Aside from the religion, we compared our politeness, way of thinking, educational systems, and military. Military was the other thing I found totally different from Japan. Of course, because of the tense situation concerning the Korean peninsula, every man has to spend his one year in the military, they said. Considering the situation, such a system must not be surprising, but I gave me a great impact, making the moment unforgettable in my life.

As for the military system, we had a chance to discuss in the whole class. A Greek guy said they had a tense relationship between Turkey about the Cyprus. A Congonese guy also said that they are in a pickle. His friend had to wander 5 days in the deep forest in Congo, escaping from the army, and finally saved in a small village. He added he met that friend last Sunday. Chinese people are also concerned with that issue. And I started to think why I had not thought that issue deeply when I lived in Japan.

Religion and military --- these two topics are totally new to me. If I had not decided to go abroad, I might not yet be interested in those issues. It is true that my motivation for joining this course was to refine my English. But I think that the most influential experience in those six weeks was the conversation with my colleagues. Japan is, fortunately or unfortunately, well- prepared country. I had thought, therefore, that there was no special need to go outside Japan except that you wanted to improve your English skills. There is no severe conflict in the country. The air-conditioning systems are available in every house. The food is good. The amusements are also abundant in our everyday life. The transportations are well developed. The academic standard is also pretty high. Besides, I had a lot of friends in this country. So I thought to live in Japan was the most idealized life for me. But after I know the people from all over the world, I have changed my mind. To stay only in one island may grow a limited eyesight. Lead a life was and will be the supreme lesson for me. To communicating with the foreign people cleft my solid way of thinking and dissolve it into a flexible liquid.

Now I am now considering going back to the USA, either staying abroad as an exchange student or applying for the master course in the USA. Before I joined in this course, I was always forced to be assimilated with the others. For example, while I decided to go to the postgraduate course, I, at the same time, felt some guilty not to go directly to the society by hunting the job. Since my friends had already got their jobs, I felt as if I was an abnormal person, which prevented me from concentrating on my study. But after I came back to Japan, I notice that there are several possible way of thinking and way of living. My friends are living in Korea, Greece, Congo, China, Colombia, and the USA. They are also outsiders in that they are not salary man at all and study their fields. They were also worried about their future but since your life is only once, they said, why not opening your door to the future?

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:2012 イェール大学サマープログラム)

所属学部/研究科・学年(留学時):教育学研究科・修士1年

留学先大学・参加コース: 2012 イェール大学サマープログラム、サマーインテンシブコース

コース期間: 2012年6月30日 ~ 2012年8月11日

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

Yale University Language Institute への留学でほぼひとつの建物で授業が行われた。大学は東大のように塀で囲まれているわけではなく、街中にキャンパスや学寮(カレッジ)、図書館などの学校施設が点在していた。サマープログラム用の学生証が与えられ、それによって複数(おそらく New Haven だけで 10 以上ある)の大学図書館が利用でき、博物館や美術館、洋服屋などで割引のサービスを受けることができる。

2. 留学の動機

留学経験のある人の話を聞いて興味を持った。自分の英語力を改善したいという思いもあったが、それ以上に様々な国から集まる優秀な学生と触れ合って刺激を得たいという思いが強く応募した。

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

申請書類の中に、任意で指導教官のサインをもらう欄があるが、サインをもらっておいた方がいいと思った。サインをお願いするに際して、指導教官に相談することができたし、履修の面で協力していただくこともできた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

手続きは時間に余裕をもってできる限り早めに行ったほうがいい。申請手続きの中で web 上のフォームに入力する手続きが最も大変で間違えやすく、間違えた場合電話かメールをして訂正手続きをとらなければならない。何人かの学生がこの手続きで躓いていた。また、ビザ申請を外部業者に委託することもできるが、よほど忙しくない限りさほど大変ではないので自分で行うことをお勧めする。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学の生協のものに入るのが楽だが、インターネットで申し込む形の保険の方が安いので、保証内容を吟味しつつ自分に合うものを選択した。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

夏学期の途中(6月30日)から留学だったので、極力留学前は休まないよう予定を調整した。単位認定は学部や教授によって異なるが、私の場合、全ての科目で特別な課題を出してもらうことによって単位の認定を受けることができた。ただし、学期の途中で抜けることが分かっていたのでグループで作業を行う形の授業は取ることができなかった。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

前年の冬学期に TOEFL 対策の授業を受けていたが、出発前には特に準備することができなかった。

私の受講したサマーインテンシブコースではコース初日にクラス分けのテストがあったので、十分に勉強したほうが高

いレベルのクラスに進むことができたかもしれない。(ただし、クラス分け後自分がどのレベルにいるかは知らされない)準備よりもプログラム期間中にどれだけ積極的に英語を使えるかが重要。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

東大や留学先から送られる書類やメールには十分目を通したほうがいい。また、受け入れ先の寮や機関のホームページもチェックし持ち物や地図、連絡先等を確認したほうがいいと思う。私はこれらをおこたったので、寮に来てからベッド用のシーツや扇風機を買い足さなければならなかった。

4. 留學生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮で生活をした。一人部屋の人と二人部屋の人がいたが、私は一人部屋だった。部屋には冷蔵庫や冷房がなく、暑い思いをしなければならなかった。テレビもキッチンもない。しかし、6週間という短期間だったせか特に不便は感じなかった。寮の中には、庭、図書館、食堂、ジム設備(ただし夏休みのため使えなかった)、洗濯室、コンピュータールーム、卓球台、ビリヤード台などがあった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学のある街 New Haven はあまり治安がよくないと聞いていたが、治安が悪いと感じることは起きなかった。土曜日にニューヨークで遊び、深夜に寮に戻る際タクシーを利用したが、2時を回っていたにもかかわらず街は騒がしく、飲みすぎた人がいたせいか救急車が泊まっていた。Yale の学生は 15 分ごとに学寮やキャンパス、駅を巡回するシャトルバス(数ルートある)や電話で呼べば送迎してくれるサービスを利用することができるので不安な人はそれらを利用できる。大学の近くにはレストランやバーが多くなかには美味しい店もある。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

日本から風邪薬を持っていったが使わなかった。

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

授業料、寮費、ビザ申請料、航空費など事前に要する費用が約 70 万円かかった。

現地の移動代、教科書代、食事代、娯楽費は 6 週間合計で約 12 万円だった。毎日寮で食事をし、お酒を飲んだりしなければこれよりもかなり少ない額で生活できると思われる。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

学校から 18 万円頂いた。支給機関は把握していないが、学内公募で参加した学生は他の奨学金を受けていない限りこの奨学金を受け取っていたと思う。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末の過ごし方 宿題が多く出っていたので土曜日と日曜日のうち一日は極力勉強に当てることにし、もう一日を遊びや買い物に使うことにした。クラスメートやルームメートと遊びに行くことが多かったが、学校がニューヨークやボストン観光、近くのビーチのツアーなどのアクティビティを企画していて毎週それに参加している生徒も多くいた。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Reading, writing, speaking, TOEFL preparation, American fashion (うち前者3つは必修授業で後者2つは選択授業)
東京大学での単位認定をされていない。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Reading (Mon—Fri, 60min)

基本的に一日ひとつの文章(A4で3~8ページ程度)の解釈について話したり、ディベートをする。読んで意見を考えることが宿題だった。Reading といっても読む技術を教わるのではなく、Writing, Speaking, Listening を含む総合的な授業という印象を受けた。

Writing (Mon—Fri, 75min)

一週間にひとつのテーマが与えられた。例えば、自分の意見を述べる文章、絵や写真などを描写する文章、説得的に論ずるための文章、メールやメモなどオフィシャルな場での文章、パーソナルステートメントなど自分を売り込むための文章などである。授業ではそれぞれのテーマの文章を書く上で留意する点や小さめの例題などを行い、小グループで検討し合ったり、クラス内で発表し批評し合ったりした。宿題としてこれらの原稿の作成が課され、それぞれのテーマで先生の、チェック・コメントをもとに一回書き直す機会があった。

Speaking (Mon—Fri, 60min)

アメリカの文化に触れることが目的とされていて、ゲストスピーカーが来て話をしたり、近くの博物館に話を聞きに行ったりした。また、イディオムを多く学んだ。ディベートをする機会が何度かありグループで準備をした。

TOEFL (Mon & Wed, 90min)

公式ガイドブックを購入し、6週間でほぼ一冊をこなした。また、毎授業ごとに口頭の単語テストがあった。Elective のクラスにしては負担が重かったがその分役に立った。

Fashion (Tue & Thu, 90min)

アメリカのファッションの歴史、現在のファッションの傾向、メイクやヘアアレンジの方法などを学んだ。私を除いて先生も生徒も全員女性だったが、ファッション好きという点では同じなので楽しく授業を受けることができた。他の elective クラスである写真クラスとの合同で撮影会やスライドショーなどを行なった。ファッションクラスの生徒はメイクやヘアアレンジをした上でモデルをしなければならなかった。授業選択時には知らされていなかったがとても楽しかった。また、最終授業では生徒の関心に沿ったプレゼンテーションが行われた。

③学習・研究面でのアドバイス

授業の予習・復習と遊びとのバランスをうまく取るよう心がけるべきである。Writing の宿題や speaking でのプレゼンテーションの準備、ディベートの準備など際限なく時間をかけることができる宿題も多く出た。これらの宿題を一生懸命にこなすことは大切だが、それによって英語を話せるようになるわけでも、他国の学生と触れ合えるわけではない。これらの準備はいわば日本にいてもできる次元のことであり多くの日本人の学生は既に得意としていることである。従って、授業に十分参加できる程度の学習は当然必要であるが、クラスメートやルームメートの誘いを断ってまで準備をするべきではないと私は考え行動した。

④語学面での苦労・アドバイス等

決して流暢に話せるわけではないが、このプログラムの参加者は皆同じなので、特に不便を感じることはなかった。性格をつかって接していてもそのうち疲れてくるので、あくまで自然体で接する、おかしいと思ったこと、不思議だと思ったことは話し、相互理解に努めることが大切だと感じた。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

プログラム初日にオリエンテーションがあり、キャンパスや学校施設の使い方、緊急連絡先、相談先、寮の使い方についてレクチャーがあった。学習、精神面に関してはクラスが6~10人程度の少人数指導なので先生にも相談しやすく学生同士で支え合うこともできた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

インターネットの環境について触れておきたい。Yale Net ID というものを留学前に取得していて、それを使うことによって Wifi を利用することができた。Wifi は寮やキャンパス、隣接した道路や公園などでも拾うことができたので、ネット環境で不便を感じることはなかった。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

準備が大変だ、不安だと思うかもしれませんが、行けばなんとでもなることが多いです。トラブルが起きた時に、自分で抱えてしまうことが問題です。どんなに準備をしてもわからないことや不安なことは出てきます。留学先では、しっかり自分の意見を言う、わからないことは聞くと覚悟を決めることが一番の準備かもしれません。

私も行く前は話すことができるのか、海外の学生と良い関係を築くことができるのか不安に思っていました。しかし、心配をする必要はありませんでした。片言でも意思は通じるし笑いも起こります。たくさんの生徒がいるのだからすべての生徒と気が合わないということはありません。行くことで感じることも得られるものがきっとあるはずなので、心配があっても一歩踏み出してみることをお勧めします。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

<写真>



寮の図書室(Pierson College)



中国人の友人と近くの日本食レストランへ



寮の庭



寮の食事に飽きた時は近くのレストランへ



6 週間一緒に勉強したクラスメート、8 人の少人数クラス



最終日の Farewell パーティ

2012 イェール大学サマープログラム 学習成果に関するレポート

金額の面でも手間の面でもコストのかかる留学だったが、率直に参加して良かったと感じている。それだけで十分に学習成果があったといえるが、今後留学を検討する方のためにも、今後留学経験を説明するであろう自分のためにもどのような学習成果がこの短期留学によって得られたかいくつかの点に整理して考えていきたい。

まず一点目として挙げられることは価値観を広げることができたということである。

もちろん日本にいて色々なことを見たり経験していくなかで新たな発見を得られることはたくさんあるし、日本にいただけでは狭い価値観しか持つことができないとは全く考えていない。しかし、様々な国から文化・経済・政治など異なるバックグラウンドを持つ学生が集まり語り合う機会を多く持ったこのプログラムでこそ得られるものがあったと考えている。例えば中国人の学生と学校教育について話していて驚いたことは、彼らの多くが全ての児童・生徒が高い質を達成するような公教育をあまり追求していないということである。むしろ国際競争力のあるエリート層の育成を重視しているように感じた。その背景には、高等教育機関を出たとしても頭脳労働に付ける保証がなく、国内(特に内陸部)には単純な労働が多く残されていることがある。従って多くの人にとって学校で教えるような高度な教養は必要がなく国民全体の教育水準を先進国並みに上げることのメリットがイメージできないという主張である。同じようにエリート教育の重要性を主張する日本の学生も多くいるが、その背景にある社会状況が違うため新鮮であった。

また、外国人や外国に対して抱いていた心理的な壁を取り除くことができたことも大きな成果であった。それが先入観からくるものなのか、外見の差からくるものなのかはわからないが、私は無意識的に他国の人に対して自分(達)とは別の人であるという認識を持っていた。先に挙げたように、自分とは違う考え方を持っていると感じることは度々あったが、それ以上に多くの感情や経験を共有できる喜びを感じるこのほうが多かった。スピーキングの授業の中で、ゲイカップルの結婚の是非についてのディスカッションが行われた。宗教や文化、世論の差が各生徒の基本的な立場に影響を与えていたが、仮に自分がゲイカップルだとしたらどう考えるかという議論になったとき、皆が子供の心配や愛することの自由を熱く語り出したことは印象深かった。

さらに、英語力の面でも予想以上に成果が上がったと感じている。出発前は6週間だけではほとんど何も変わらないけれども話す度胸くらいは付けてこようと思っていた。もちろん、流暢に思ったことを話すことができるようになったわけではないが、学生として海外で生活するくらいには力がついたように思う。毎日9時から3時半まで授業がありさらに宿題を3時間程度はこなさなければならなかった。日本人の比率は少なく、ひとつの選択授業を除いて、クラスに日本人は私一人であった。このような英語に集中できる環境が用意されていたことが上達の大きな要因になった。また、放課後や週末、食事の時間も必然的に他国の生徒といる機会が多かったため英語を使うことに慣れることができた。とはいえ、日本で英語を使わない生活を続けているとすぐにレベルが落ちてしまうような気がするので留学中に知り合った友人と連絡を取り合いつつレベルを維持していきたいと思う。

以上のような学習成果と共に次の海外留学への関心も生まれた。私は現在いる教育学研究科にて修士号取得後就職する予定なので、これが最後の海外留学になるだろうと思っていた。しかし、帰った今感じていることは一生のうちに数年間はアメリカの大学、できれば今回勉強したイェール大学で勉強をしたいということである。現在の大学院の学習環境にとっても満足しているので修士号はここで取る予定だが、多様な学生が集まり、街全体が学びに適した環境にあるアメリカの大学でもう一度学びたいと考えている。今回のプログラムには社会人の方も多く来ていたし、先生の中には働いたあとに別の大学で学び直した経歴をもつ先生も多くおられた。

日本でも生涯学習、リカレント教育という言葉が徐々に浸透し始め、政策のレベルでも推進されてきているが、依然として大学などの高等教育機関は高等学校等を卒業した若者のためであり大多数の社会人にとって遠い存在である。しかし、このプログラムに参加したことによって途中でまた学び直すこと、それによって自分を新しくし自分の価値を高めることの意義と魅力を強く感じ、社会人として仕事をしていく中でも機会を見つけて数年間勉強したいと思うようになった。

最後に自戒を込めて述べておきたいことがある。それは、自分が日本で得てきた経験をベースに留学経験を位置づけていきたいということである。留学を通して変わったこと、学んだことは多いがそれをもって日本ではダメだなどと嘯いているようではいけない。家族、サークル、職場、学校、地域、国家—様々な重なり合う共同体の中で私たちは生きている。そのそれぞれに違いがあり学ぶべきことがあると私は考えている。身近で綿密な関係性の中でこそ微かな差異に気付くこともあるし、大きな枠組みから見て初めて気づくこともある。今までに経験してきたものの上に留学での経験を重ね合わせることによってより豊かな視野を培っていききたい。

所属学部/研究科・学年(留学時):法学部第二類三年

留学先大学・学部/研究科等:Yale 大学

留学期間:2012 年 7 月 ~ 2012 年 8 月

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体 5.民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

Yale 大学はアメリカ Connecticut 州 New Haven 市に位置する世界でもトップクラスの大学です。私が参加したプログラムは Yale 大学の English Language Institute という機関で行われており、教師陣は普段 Yale 大学とは別の大学で教鞭をふるっている教授で構成されています。

2. 留学の動機

私は将来国家公務員を考えているのですが、グローバル化の進んだ現代においてはたとえ国内事項を中心に扱う仕事といっても世界情勢に敏感でなければ適切に物事に対処することはできません。そこで、英語能力を向上させより幅広いところから情報を集められるようになりたいと思ったのが動機の一つです。また、今まで何度か海外の人と交流する機会があったのですが、英語能力不足により言いたいことが上手く伝えられずもどかしい思いをすることがたくさんありました。そのような思いを今後においても味わうことを防ぐためにも、特に speaking 能力を中心とした英語力を向上させたいと考えたのが、もう一つの動機です。

3. 留学の準備

①留学先大学へのプログラム参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

Yale 大学から送られてくる書類は多々情報が足りていない部分があるので(滞在する寮の名前が書いていないなど)、手続き中に大学とメールでやりとりする必要があるが出てきます。割と時間がかかるので、時間に余裕を持って手続きを進めていった方がいいと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1 ビザをアメリカ大使館に申請します。ビザ申請には Yale 大学から送られてくる書類を提出することが必要です。私の場合予約から面接までは二週間くらいでした。面接自体はすぐに終わるのですが、面接をするまでとても待たされるので、時間に余裕のあるときに行くといいです。面接は滞在先、目的など簡単な質問のみで終わりました。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京海上日動の海外傷害保険に入りました。海外傷害保険に入っていると、何かトラブルがあったとき非常に頼りになるので絶対に入っておくと何かと便利です。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

2 週間ほど夏学期の授業にでれないので、出席点がある授業の教授に、サマープログラムを理由に2, 3回授業を休むことは可能か、成績にはどのくらいの影響があるのかなどを尋ねました。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL ibt が 80 点でした。しかし英語レベルはプログラムへのアプライにおいて問われていません。

現地で最低限の英会話はできるよう、二ヶ月ほどオンライン英会話レッスンを受講していました。

⑥日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ティッシュが役に立ちました。ランドリーがあるので服はそれほど持っていなくて大丈夫です。水筒があると食堂で飲み物を入れられて便利だと思います。

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学寮に泊まりました。Online Registration の際に申し込みます。6人ほどで一つの suite に滞在しますが、部屋は一人部屋か二人部屋です。部屋はとてもきれいですがトイレは少し汚いかもしれません(掃除の人にもよりますが)。大きな中庭があり、景色はとてもいいです。24時間の図書館が付属しており便利です。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

上に一枚薄いカーディガンを羽織ってちょうどいいくらいです。たまに激しい雨が降るので傘は必須です。大学周辺はあまり治安が良くなく、夜に一人歩きするのは危険です。夜中は大学の送迎サービスが使えます。主に徒歩で移動しますが、たまにバスを使いました。食事は寮でとりました。ビュッフェ形式で基本的においしいですが、味付けがあまり変わらないので飽きることもあるかと思います。周辺には日本料理屋含め様々な飲食店があるのでたまに食べに行くといい気分転換になると思います。お金は日本円で6万程度をアメリカドルに両替しましたが、額が高額になる場合はクレジットカードを使いました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

夜は出歩かないようにし、明るい時間であっても人通りの少ない場所には行かないようにし、どうしても行かなければならないときはバスを使いました。また、出来るだけ「外国人らしさ」をなくし狙われないようにするため、現地の人に近い恰好をするようにしていました。医療については、出発前に歯医者での検診に行ってきました(虫歯治療は海外保険が効かないので)。心身の面では、十分に睡眠をとるようにしました。また、バランスよく食事をするよう心がけました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・生活費とその内訳

家賃・食事費 3170ドル(大学に支払う)

・留学に要した費用総額とその内訳

約84万円(航空費15万円、授業料4450ドル、宿泊費・食事費3170ドル、教科書代1万円、その他8万円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

4000ドル Friends of Today inc

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

・ニューヨーク、ボストン観光

・映画、Festivalに行ったりなど

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

英語

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

午前中に Reading, Writing, Speaking and Listening の 3 つのクラスを受講し、午後に選択授業を受講します。参加者はいくつかのクラスに分かれ受講し、クラスによって授業内容や扱う教材に違いがあります。Reading では小説についてのディスカッションを行い、Writing ではほとんどのクラスで Argument Paper の書き方を練習していたようです。

Speaking and Listening は最もバリエーションがあり、Presentation を中心に授業を進めるクラスから Short Drama を演ずるクラスまでさまざまなものがありました。午後の選択授業は十数個ある選択肢の中から選べるのですが、私は TOEFL Preparation という TOEFL 対策の授業と、Experience New Haven という Yale 大学が位置する New Haven 市の様々な場所を巡る授業を受講しました。毎日宿題が出るので、授業後はそれに時間をとられます。平日は復習まで手が回らないので週末にやります。

③学習・研究面でのアドバイス

時間が限られている中で多くの宿題をこなさなければならないので、時間管理・優先順位付けが大切だと思います。また、クラスのシラバスや担任の先生が気に入らない場合はマスターに言えば変更できるので、初めの数日間さまざまな人から他のクラスの情報を仕入れるといいでしょう。

④語学面での苦勞・アドバイス等

とにかくおじけず話すことだと思います。また、わからなかった単語、表現は覚えておいてあとで調べるといいでしょう。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

寮の一回にカウンセラーという Yale 大学の生徒が滞在しており、プログラム参加者のトラブルに対応してくれます。教師の質にばらつきがありますが、事務局に言えばクラスを変えてもらうことができます。サポート体制は比較的充実していると思いますが、教師以外の英語のネイティブ話者は、例え相手がノンネイティブであっても普通の速さで英語を話すので、少し意思疎通が大変かもしれません。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

キャンパス内に図書館がたくさんあります。寮にも 24 時間 OPEN の図書館がありとても便利です。無料で使えるジムもあります。インターネット回線も無料で使えます。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

たいていのことは自分の英語力でなんとかなるということがわかりました。また、下手でもなんでもとにかく話して自分の意志を伝えようとするのが大事だとわかりました。英語を話さないと何もできない環境におかれたので、依然感じていた英語を話す際の躊躇はかなり軽減されたと思います。また、授業では頭で文章を構成する前に話さなくてはならなかったのが、「英語で思考する」という感覚がつかめたように感じます。私の参加したプログラムでは特に中国からの参加者が多かったのですが、「近くて遠い国」といわれる中国の友達がたくさんできたことはとてもよかったと思いま

す。

②留学後の予定

民間の就職活動をしつつ国家総合職試験の勉強をします。また、せっかく向上した英語力を落とさないよう、オンライン英会話をしようと考えています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

当プログラムは夏休みの期間を利用して行けるため、長期の留学プログラムに比べ学業に対する影響が少なく済みます。海外留学をしたいけれど、長期留学は長すぎる、という方におすすめです。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

日米教育委員会 HP(ビザ申請の説明が読めます)

③その他留学中の写真などがあれば添付してください。



2012 イェール大学サマープログラム 学習成果に関するレポート

私は、7月頭から8月の中旬にかけて6週間、アメリカイェール大学の English Language Institute で行われた Yale Summer Session に参加してきました。Session にはいくつかコースがあり、私は Intensive English for College Students という英語の集中強化のコースを受講しました。

私がこのコースへの参加を希望したのはいくつか理由があります。

まず、私はグローバル化の進んだ現在、どのような職業に就くにしても海外との関係性を考えずに適切な判断をすることは不可能だと考えており、よって幅広い情報収集を可能にするため英語能力を強化したいと思ったのが第一の理由です。また、海外の友達と話をするとき、メールのやり取りをする際に、自分の言いたいことが上手く表現できず悔しい思いをすることが何度もあったので、今後そのような思いを味わい続けることを防ぐためにも、英語で円滑にコミュニケーションをとれるようになりたいと思ったことも理由の一つです。第三の理由は、今までゼミなどで日本人の学生とディスカッションをする機会はたくさんあったのですが、日本人、しかも東大という枠内だと多かれ少なかれ考え方が似ているので、自分とは異なる価値観を持っているであろう海外の学生と交流したいと思ったことです。

プログラムは午前のクラスと午後のクラスに分かれており、午前中に Reading, Writing, Speaking and Listening の3クラスを受講し、午後は選択授業を受講しました(私は TOEFL Preparation というクラスと Experience New Haven というクラスを受講しました)。Reading のクラスでは、毎回小説を一つ読んできてディスカッションをしました。Journal と Vocabulary log の作成が毎日の宿題でした。Writing のクラスでは、Essay の書き方を学びました。他のクラスでは Argument Paper の書き方について学ぶところが多かったようです。Speaking and Listening は担当の教授によって内容が大きく異なり、私のクラスはプレゼンテーションをしたり、映画をみたり慣用句について学んだりなどしていましたが、Short Drama を演ずることを通じて会話表現を学ぶクラスやひたすらプレゼンテーションのみをやるクラスなどもありました。毎日宿題が出るため、寮に戻るとほとんどの時間を宿題に費やしました。クラスは9人ほどの少人数で構成され、生徒一人一人に担当教授の目が届くようになっており、どのクラスでも積極的に発言することが求められます。私が所属している法学部では大教室でひたすら教授の講義をきき、宿題はあまりないという形式なので新鮮でした。アメリカの授業形式を経験出来てよかったと思います。教授の英語は非常に聞き取りやすく、言っていることがわからないということはほとんどありませんでした。

午後の授業について、TOEFL Preparation クラスでは、TOEFL 受験における strategy について学びました。担任の先生の面倒見が非常によく、生徒個人の要望に合わせて追加の宿題を課してくれたりなどしました。Writing の添削を頼んだクラスメイトもいましたし、私の場合は単語テストの範囲を追加してもらったりしました。Experience New Haven では Yale 大学のある New Haven 市内の様々な場所をめぐるしました。コースに参加していなかったら行かなかったであろう場所にたくさん行きましたし、行き帰りの時間はクラスメイトとのおしゃべりを楽しめたので良かったです。午後の選択授業は全部で十数個あり、Film のクラスや Photography のクラスなどが人気だったようです。

私の受講したコースは中国人参加者がとても多く、8割ほどが中国人だったと思います。同じコースに参加した日本人は4人ほどいたのですが、それぞればらばらに行動していたので、ほとんどの時間をクラスメイトと過ごしていました。互いの文化、学校生活、言語、将来の進路などについて話したりなどし、とても刺激的でした。日中関係はしばしばとても不安定になりますから、中国人の良い友達をたくさん持てたことは、偏見やステレオタイプに陥ることを防ぐという点でも私にとってとても良かったと

思っています。中国人学生と交流して感じたことは、まず、職業について「どれだけ収入があるか、安定しているか」ということを非常に重視しているということです。非常に発展してきているとはいえ、まだ発展途上にある国なのだという感じました。また日本人に比べボディタッチが多いです。中国と日本は文化が似ているだけに、文化や考え方、価値観などの違いはとて興味深かったです。

New Haven は New York や Boston にも電車で 2, 3 時間程度で行け、週末に観光に行くこともできます。また、サマープログラムの事務局が週末に様々なイベントを企画しているので、充実した余暇を過ごすことができます。例えば、私の滞在中には New York や Boston、近辺へのショートトリップ、演劇や映画鑑賞、サーカス鑑賞などの企画が組まれていました。また、映画の割引チケットも売られており、私も 3 回ほど友人と週末に行ってきました。

そういったイベントや食事の時間などはクラスメイトと共に過ごし英語で会話しているので、勉強以外の時間も英語を練習できます。中国人の参加者は自分たちの大学の友達で固まっていることが多かったのですが、一人と仲良くとその人と同じ大学の人たちとも芋づる式に友達になれるのは良かったです。しばしば周りで中国語の会話が繰り広げられ会話に入れなかったのですが、たとえ中国人同士の会話であっても近くに外国人参加者がいるときには英語で話すことにしている人たちもいるので、私はそのような友達と一緒にいることが多かったのです。非常に助かったので、もしも自分が日本で外国人と交流する機会があったら、同じように、例え日本人同士の会話であっても極力英語で会話するように心がけようと思いました。

今回のサマープログラムに参加して得た最大のものは、『「英語で考える」感覚をつかんだ』ということだと思います。プログラム参加前は、英語を話すときにはいつも「一度頭の中で日本語の文を作り上げてから英語の文に変換する」というプロセスを経っていたのですが、プログラム参加中は、クラスでのディスカッションの際など即座に反応することを求められ頭の中で文を組み立てている余裕はないので、日本語での思考を経ることなく英語を話す練習をすることができました。また、友達は皆日本語を解さないため、何か面白い出来事、誰かに伝えたい出来事がある度に「英語でどう伝えようか」と毎回考えたことも「英語で考える」能力の向上につながったのではないかと思います。また、意外に自分の英語でもそれなりに意図を伝えられることがわかったので、英語を話す際に感じる躊躇も減りました。Speaking 以外の能力についてはどれほど向上したのかよくわからないのですが、先日 TOEFL を受けたのでその結果をみて留学の効果を確認しようと思います。

自分のスキルアップを感じる一方で、いくら英語力が向上しようとも話すべき内容がなければ仕方がないということも感じました。時折日本の政治・社会問題について話す機会があったのですが、人からきいた通り一遍の答えしかできないなどし、まずは自分の考えを持つことが大切だと感じました。

海外留学には以前から興味があり、プログラム後もそれは変わっていません。しかし、留学前は海外の大学の授業スタイル、環境等への憧れから留学をしたいと漠然と思っていたのですが、プログラムを通じ海外の大学生活に多少なりとも触れた結果、授業スタイルや環境がどうであろうと、結局のところ、どれだけ自分の能力を伸ばせるかは個人の努力に寄るものが一番大きいと感じました。もしも将来留学をするのであれば、特に専門的に学びたいものが定まってから、日本の大学では取り扱っていないような事柄について学びたいです。

せっかく伸ばした英語能力なので、それを落とすことなく、持続するよう今後も努力していきたいと思えます。

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:2012 イェール大学サマープログラム)

所属学部/研究科・学年(留学時):農学部生物環境工学専修4年

留学先大学・参加コース:Yale Univ. English Language Institute

コース期間:2012年7月2日～2012年8月9日

卒業・修了後の就職希望先:1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

Yale Univ.はNYから電車で90分程北に行ったところのNew Havenという所にあります。New Havenはあまり都会ではありませんが、大学の周りにはスーパーやバー、映画館など様々なものがそろっていて特に不自由する事なく生活を送れました。授業は平日5日間の午前中に毎日Reading, Writing, Listening and Speakingの授業があり、また午後には選択で授業をとる事ができました。

2. 留学の動機

これまでの大学生活の中で旅行など海外に行く機会が何度かあり、その中で自分の英語の未熟さを痛感しており、卒業するまでに一度留学をして英語を思いっきり勉強してみたいと考えていました。そのなかで、Yaleは世界でも有名な優秀な大学であり、そんな環境で勉強してみたいと思い、参加する事に決めました。

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

特にありませんが、私の場合は締め切りの直前に応募を決意したため、ばたばたしてしまったので、できるだけ余裕を持って新生をした方が良いと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの取得はなかなか複雑で、取得するまでに結構時間がかかったため、これも余裕を持って行った方が良いと思います。

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードの保険にしか加入しませんでした。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

今回の留学は農学部の試験期間と被っていたため、教授に相談して、追試や別の課題を用意していただきました。

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEIC800点程度の英語力でした。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

パソコンは必須ですが、それ以外には特に必要不可欠なものはないと思います。携帯電話も必要であれば向こうで比較的安価で借りれます。

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

このプログラムの学生は基本的に大学の寮に入っていました。お金はプログラムの料金に含まれています。私は運良く1人部屋でしたが、2人部屋のところもありそこは選べないようです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は日本と似ていますが、夏場の湿気が少なく、とても過ごしやすかったです。New Havenは危険だと聞いていま

したが、大学周辺には Yale の警備員もいて、安全でした、食事は基本的には寮の食事を食べていましたが、時々大学周辺のレストランに行っていました。特に不自由はしません。お金は Cash Passport というものを使っていて、ATM から引き出せるようになっていてとても便利でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺の治安は悪くはないと思います。

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

留学にかかったお金は Yale に60万(奨学金で18万かえてきました。)。寮、授業、食事などを含みます。

航空費は往復で16万。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

大学から18万いただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

大学のジムが使えたので、時間のあるときは友達とジムで運動していました。週末はボストンや NY まで行って観光を主にしていました。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Reading, Writing, Listening and Speaking

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は完全に担当の先生次第ですが、どのクラスも共通して毎日多くの課題が出されていました。そのため、午前中に授業は終わるものの、夕方くらいまでは課題に時間を費やしていました。

③学習・研究面でのアドバイス

④語学面での苦労・アドバイス等

留学に行く前はほかの生徒たちも英語が話せないのだろうと考えていましたが、実際は他の国の学生は流暢に英語を話している人が多く、驚きました。その中で、英語に慣れていない私は最初はとてもコミュニケーションに苦労しましたが、できるだけ人と話すように心がけていました。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

授業は本当に先生次第で、評判の良くない先生もいたため、少しリスクがあるなと思いました。その他の面では、非常に充実していると思いました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館、ジム、食堂、PC ルーム、WiFi、コインランドリーなど様々なものが完備されていてとても充実していました。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありません。

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日本の学生は、他の国の学生より圧倒的に英語力で劣っていると思います。ぜひ頑張って勉強してください。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

私は2012年7月2日から8月9日まで Yale University で行われた English Language Institute という英語の学習プログラムに参加してきました。その中で、6週間というのは英語の学習には短すぎると感じました。しかし、それでもこの留学は非常に有意義なものになったと考えています。留学に行く前は、私は学校の英語学習プログラムに乗ってきただけの勉強しかしてきていませんでしたが、留学先の他の学生も英語を学びにきている訳で、そこまで英語力に差はないだろうと考えていました。しかし、実際行ってみると、周りの学生は流暢に英語を話していました。ヨーロッパの学生だけではなく、中国や韓国の学生が英語に堪能なのに対し、(少なくとも自分の周りの) 日本の学生が英語を上手く使えていない現状にとっても危機感を覚えました。その危機感もあり、Yale では出来るだけ多く英語に触れようと、授業に真剣に取り組み、また授業が終わった後は他の国の友達と会話をするように努めました。しかし最初に述べたようにやはり6週間という期間では英語をペラペラにはなせるようにはならず、英語を話す事に抵抗がなくなった程度だと思っています。自分ではこれは大きな進歩だと考えていますが、やはり中学の頃から学校で英語を聞き、話す努力をしてきた人たちに、たった6週間で追いつける訳もなく、英語の学習には今後もしっかりと取り組んでいかなくてはと考えています。

Yale での授業は平日5日間毎日 Writing, Reading, Listening and Speaking の3科目があり、9時に始まり1時前に終わるという感じでした。どのクラスも1クラス7~8人なので、先生と生徒の相互の会話も多く、とても楽しい授業でした。授業の内容は完全に担当の先生に任されていて、私の場合は、Reading は読んできた課題に関して先生がひたすら話すのを聞く形式で、Writing は Academic Writing の書き方を1から学ぶ基礎的な授業で、Listening and Speaking は先生と雑談をする感じの授業でした。私は学生の中で最も英語が話せない学生の1人であったので、どの授業も基礎的な内容ではありましたが、私の課題が多く英語に触れ、Listening と Speaking を伸ばすことだったので、基礎的な内容で良かったと思いました。授業が始まって間もない頃は、先生の話す事を聞き取る事に精一杯でしたが、プログラムの後半には授業にしっかりとついていける程度になり、成長を感じる事が出来ました。

また、私は6週間も海外で過ごす事が初めてだったので、日本と海外の違いを感じる事が多かったです。電車やバスが平気で2、3時間遅れたり、チップという習慣であったり、日本にはない文化や習慣に気付き、考える事が非常に重要だと思いました。また、ヨーロッパやアジアの国から来ている留学生が多く、一緒に食事をして、遊んで、お酒を飲んで、話し合ったそういった国からの友達はとても貴重なものになりました。

この留学はとても有意義で、良い経験になりました。今後もこのような良い留学経験をしていきたいと思っています。